山陽堂だより 51

2013年 10月 神無月

天野祐吉さん
ありがとう
ございました。

10月20日に亡くなられた天野さんは、山陽堂で谷内六郎さんの展覧会を2回、トークイベントを3回開催してくださり、今年の六郎さんの33回忌 1月23日には、天野さんの言葉で六郎さんのプロフィールの銅版プレートを設置しました。→

「コラムニスト天野祐吉」の文章は、六郎さんの『傘の穴は一番星』の壁画が残っている限り青山にありつづけます。
天野祐吉さん、谷内六郎さんと山陽堂をさらに近しくしていただき、どうもありがとうございました。

山陽堂書店

㊗ ミシマ社7周年記念企画

Cocco最新エッセイ「東京ドリーム」出版記念

Cocco 東京ドリーム展 開催!

BOOKエッセイ
ミシマ社
「東京ドリーム」
1575円

会期 10月29日(火)〜11月9日(土) 11時〜19時(最終入場18時半)

但し 11/2(土)、3(日)、4(祝)、9(土)は、11時〜17時(最終入場16時30分)

日・祝 11時〜17時オープンします。(入場16時半)

※ 時間には十分にお気をつけてお越しください。
最終入場は閉廊の30分前です。月-金18時30分、土日祝16時30分が最終入場です。

エッセイ集の発売を記念して、Cocco自らが描き、書籍のカバーの原画や、200枚におよぶ手書きの原稿用紙などを展示します。(Coccoワールドデス)
また、会場ではサイン本や「こっこ商店」オリジナル展示グッズを販売します。
→毎日販売しますが数限定デス。
(cocco official siteより)

「好きだと叫びながら自転車のペダルを思いっきり漕げるような恋がしたい」
文中より

2009年ミシマ社3周年の秋、改装前の山陽堂でフェアを開催。二女が通っていた合気道の道場で、ミシマ社の三島さんと出会ったのが、ご縁のはじまりでした。
あれから4年「まずは100年続けるために目の前の一冊にすべてをかける。」「一冊入魂の精神は100年先を考えたときの必然でした。」そんな思いを持ちつづけながら7周年を迎えたミシマ社さん。お祝いの企画展、しかも三島さんの大好きなCoccoさんの出版記念です!! みなさまのお越しをお待ちしております!

七年間のミシマ社さんの本も揃えています。

<伊原美代子写真展『みさおとふくまる』>

2013.10.10(木)～10.26(土) 終了いたしました。

お越しくださったみなさま どうもありがとうございました。

「お月様が照らす道を、おばあちゃんは、牛車に揺られて、お嫁にきました。」頁をめくると操おばあちゃんのお嫁入りの写真が目に入ります。

・・・・・・・・・

BOOK 写真集

「みさおとふくまる

さようなら

こんにちは」

リトルモア 1680えん

「ある暑い夏の日、みさおおばあちゃんが
54年連れ添った旦那さんが亡くなりました。
大きい悲しみを感じながら、涙を見せることも無く
夫の死を受け入れる姿は、季節ごとに咲いては散ってゆく
花を見つめるように自然だったと、伊原さんは言います。
それから、おばあちゃんを写す日々がはじまりました。
やがて納屋で、野良猫が子供を生みました。
そっと見守ることにしたおばあちゃん。
でも、一緒に生まれた兄弟たちは次々に亡くなり、
一人ぼっちで寂しそうなふくまるを、おばあちゃんは飼うことにします。
畑についていったり、洗濯や料理を見ていたり…。
おばあちゃんの暮らしの中に、ふくまるが寄り添っています。
かけがえのない大切ななにかを失っても、どんな嵐がやってきても、
幸せが溢れ出しそうでも、その日々は、もう二度と無い一時、一日。
動じずにただただひたすらに生きることが出来れば、すべてが好日。
明日もきっといい日になる。」 (リトルモアHPより)

会期中、外国の方の来場が多かった印象があります。
ギャラリーノートにも 英語や中国語で感想が残されていました。

ギャラリーから降りて来て1階のレジで「みさおとふくまる さようなら、こんにちは」をご購入いただいたお客さまが、ぽろぽろ涙をこぼしていました。ご自分でも止まらない涙におどろいていました。人の心を動かす"写真"。伊原さんの写真ってすごいなと思いました。こんな言葉もギャラリーノートに残されていました。
「おばあちゃんと一緒に暮らしをしていた頃をふと思い出しました。まだ元気でいてくれるうちに久しぶりに会いに行こうと思います。」